

## IV 体育 1年次の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 役割を明確にしたトリオでの学習形態の工夫

体育科の実践・研究では、運動を通して身に付けたことを次の課題へつないでいくための支援の工夫を行ってきた。特にマット運動の学習では、「演技する」「補助や助言をする」「動画を録画する」など、3人で役割をローテーションしながら行うトリオでの学習形態をとった。動きのこつを意識して演技ができたかどうかを、友達からの助言や録画動画を再生して見る活動を通して客観的な視点で省察することで「できた」「まだ、できていない」などの実感や新たな課題の発見となった。それが、自分や仲間の出来栄をより高めようと主体的に課題に取り組む姿につながった。また、自分や友達の課題を共有し、互いにアドバイスしながら高まり合うという成功体験から、技能の習得にもつながった。

#### (2) 動きのこつを「学びのものさし」とするための学習過程

器械運動やゲームなどの領域を中心に、学習シートに自分（たち）が見付けた動きのこつを記入して、全体でキーワード化して共有を図ってからもう一度課題解決に取り組む学習活動を行った。また、タブレット端末を限定的に使用することで運動量を確保しながら、トリオで演技を見合ったり録画した動画を見合ったりするなど、動きのこつを客観的に探す手立てを講じた。例えば、マット運動では「スピードアップのために」「スムーズな回転のために」「ピタッと止まるために」の3つに動きのこつを分類しながら技をつなぐ方法を全体で共有した。そして、技ごとに子どもの発言をキーワード化し記入した連続写真を側面に掲示した。動きのこつを言葉で可視化することで、「何のために」「どのこつ」を使っていくのかを自分たちでキーワードを伝え合いながら、演技したり、動きを確認したりする姿が見られた。自分の課題を解決するために、動きのこつを「学びのものさし」として課題解決に向かうことができた。

### 2 課題 必要に応じた学習集団の構成の変更

単元・領域を通して、同じメンバーで学習を続けることで、仲間の変容を見取り続ける利点もある。そのため、振り返りの場面においても3人グループ（トリオ）で振り返ることで、新たな課題が見つかることも考えられた。しかし、新しい課題の発見や発展技などに挑戦する意欲の高まりにつながりにくいことが課題である。そのため、単元・領域の途中であっても、課題別や習熟度別にグループを組み直していくことも大切である。子どもたちの実態をしっかりと把握しながら、同グループで学習をしていくか、途中で新たなグループに組み替えていくのかを課題別、習熟度別の選択を取り入れた学習過程を工夫していきたい。